

豊田高専広報

第125号

2020.3.9

National Institute of Technology (KOSEN), Toyota College



CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 ロボコン全国大会
- 03 ロボコン舞台裏
- 04 ロボコン地区大会／須賀杯駅伝
- 05 デザコン／飛行ロボコン
- 06 英語プレコン／建築コンペ
- 07 体育祭
- 08 こうよう祭
- 09 シラパコーン大学
- 10 日タイ高校生 ICT フェア
- 11 学生会だより
- 12 学寮だより
- 13 卒業生メッセージ
- 15 修了生メッセージ
- 17 外国人留学生卒業メッセージ
- 18 オープンキャンパス／セキュリティコンテスト
- 19 教育改善推進室／キャリア教育支援室
- 20 図書館だより／在外研究員だより
- 21 新任教職員挨拶
- 22 令和2年3月卒業・修了予定者の就職・進学状況
- 23 フォトカレンダー（10月～3月）



伝統の先へ



たがわ ともひこ
校長 田川 智彦

平成から令和の時代となり、5年間の「第4期中期目標期間」が始まりました。この目標が達成されるころには、本校は創立60周年を迎えます。高等専門学校教育システム開始以来半世紀以上が経過し、様々な素晴らしい伝統が生まれています。こうした伝統のもとでの早期技術者教育が、創造的・実践的技術者の育成システムとして高く評価され、高専に対する社会からの期待がこれまでになく高まっています。自由民主党の文部科学部会高等専門学校小委員会では「60周年の節目に向けて高専の機能の高度化をさらに加速化させるべき」との決議がなされました。

本校でも、他校に類を見ない独自の伝統があります。全国高専の中でも最大規模を誇る学寮を利用した教育システム、英語多読による英語能力の強化、異文化理解を目指した低学年生の海外留学など時間をかけてユニークな教育システムを作り上げてきました。また、「とよたイノベーションセンター」という独自の産官学連携組織による企業技術者養成や技術相談を通じた地域貢献も高く評価されています。

しかし、伝統の上に安住しては、未来は築けません。「還暦」に向かって、独自の機能を強化し、伝統の先にあるべき「新生豊田高専」を目指さなければなりません。第4期中期目標では社会連携、国際化、ソサエティ5.0などが新しいキーワードとなっています。本校ではすでに、こうした方向を目指して大きな改革を開始しました。ICTセキュリティ教育センターの発足、グローバル技術者育成プロジェクトについては前号で報告させていただきました。令和2年度にむけて、国際交流センター(仮称)の設立と英語で理数系基礎科目の講義ができる外国人教員配置の準備を始めています。また、10年間継続した、とよたイノベーションセンターの「ものづくり一気通観エンジニア養成プログラ

ム」も「デジタル×ものづくりカレッジ」へとリニューアルします。

こうした未来へのステップアップを後押しする予算の内示が令和元年末にありました。もちろん予算成立が大前提ですが、本稿がお手元に届くころには現実となっていることを願っています。半世紀を経て老朽化したインフラ(給排水ライン)の整備はすでに始まっています。今後数十年の安心に加え、大規模災害にも対応できるよう、井水の給水系統の充実も図られています。また、大きなものとしては国際寮の新築があります。留学生と日本人学生の寮生活を通じた交流のこれからを考えるよい機会となります。また、グローバル技術者育成プロジェクトの柱の一つである短期留学生向けサマーセミナー(仮称)実施に向け大きな弾みとなります。これを機に既存学生寮の更新も要求してゆきたいと考えています。

装置類の更新も内示がありました。「情報セキュリティ人材育成教育設備」はICTセキュリティ教育センターの活動の高度化に大きく貢献します。「マルチメディア併用高度CAEシステム」はソサエティ5.0に対応した新時代の技術者養成に不可欠なコンピュータ支援システムです。「500kN構造物実験装置」は巨大地震等での構造物の限界状態を把握するための試験を行うもので、国土の強靱化を図るうえで大いに活用されます。令和2年度早々には、創造工房棟が竣工し、産学連携等による高度なものづくりを通じた学生の創造性の涵養や、アクティブラーニングに大きく貢献することが期待されます。

皆様におかれましては、このような本校の未来に向けての前進にご理解を賜り、これまで同様、ご支援・ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

ロボコン全国大会

4年間のロボコンを終えて

Bチーム

電気・電子システム工学科 5年

みつおか りょうま
光岡 稜真



今年の課題は「らん♪ RUN Laundry」でした。布(洗濯物)という形が自在に変わるものを取り込み、物干し竿に正確に、しかも美しく干さなければならない難しい課題でした。

東海北陸地区大会は10月20日に刈谷で行われました。豊田高専が主管校であったため、製作の段階で気合の入りが違いました。その大会で我が豊田高専Bチームは竿の上を洗濯ばさみが自走する、その名も「走る洗濯バサミ」で注目を浴びました。なんとか勝ち進み決勝戦まで行きましたが、バッテリーから電源基板をつなぐケーブルの断線等でロボットが動かず、悔しくも敗北しました。

国技館で行われた全国大会では地区大会の雪辱を晴らせるようぎりぎりまで改良し、満点を取れるまでになりました。前日の試走及びテストランでもほぼ確実に満点を取ることができ、幸先のよいスタートだと思っていました。

初戦、大阪府立大学高専に開始すぐ、バスタオルの回収を妨害され満点が阻止されました。そのまま態勢を崩し16点vs11点で敗退しました。全国の壁は厚かった。このまま復活はなく、我々の全国大会は幕を閉じました。前日がよく動いていただけに悔しく、申し訳なくなりました。

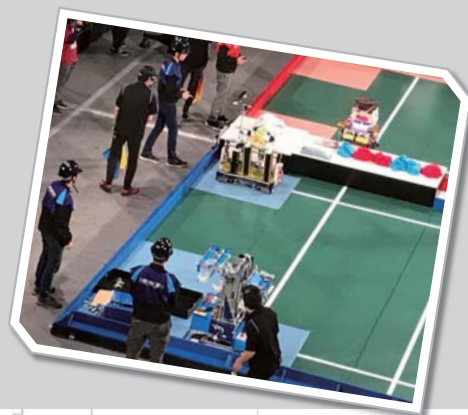
3年生まで在籍していた間、先生から適材適所の考え方を口酸っぱく言われました。「協調意識が低いなどチームとしてはあまりよろしくないメンバーがいたとしても、彼らにはそれぞれ突出している能力があり、適した場所に置く



と素晴らしい成果を出す。規則を守ろうとするとせっかくの能力が発揮されずにつぶされてしまうから、そういう人を見抜いて能力を存分に発揮できるようにする。」当時はどうなんだ?と思いつつも従っていました。

そして今年、一度は引退した自分がリーダーとして呼び戻されてチーム運営をしました。今年のメンバーは非常に個性的で、自分の考えで動かそうとする人ばかりでチーム作りはつらいことだらけでした。しかし、この適材適所のチーム運営によって自分が低学年の時よりも良い成績が残せたので先生が言っていたことは間違いではなかったのかなと思います。

最後になりましたがこの場をお借りして、教育後援会・同窓会の方々のご支援、そして夜遅くまで開発・練習に付き合ってくださいました先生方に感謝申し上げます。来年以降、豊田高専ロボコンBチームは必ずパワーアップし全国で活躍します。今後ともよろしくお願いいたします。



高専ロボコン2019東海北陸地区大会の運営を終えて



高専ロボコン2019東海北陸地区大会競技委員長 あんど う ひろや
 学生主事 情報工学科 教授 **安藤 浩哉**



開場前の様子

令和初の高専ロボコン東海北陸地区大会を2019年10月20日(日)ウイングアリーナ刈谷で開催いたしました。28年前に第1回高専ロボコン東海北陸地区大会(平成初)の運営をしたのも豊田高専(会場は本校の第一体育館)でしたので、星回りの良さを感じます。

開催にあたり、まず頭を悩ませたのは会場選びでした。奇しくも、同時期にラグビーワールドカップの公式イベントスペースとして、スカイホール豊田(前回9年前の高専ロボコン東海北陸地区大会会場)が既に予約されていたからです。

ロボコン競技会場には、中央のメインセットと競技スペースを囲むようにして、審査員席、実況解説席、各高専応援団席(約500名分)、ライブストリーミング配信用ブース、ロボット整備作業用ピット(20チーム分)、ロボットの試走場などを配置するため、35m×45m程度の空間が必要です。それに加えて、一般客席(今回は2階に800席)、電源(AC100V20A×15程度)、バスやトラックの転回・乗降・積み降ろし・待機場所、放送用車両の設置場所、会議室(6部屋程度)、来場者(一般・参加者)受付や協賛者ブースの設置場所なども確保しなくてはなりません。勿論、交通の便の確認、会場費や空調費などの算段も必要です。これらの条件を満たした会場がウイングアリーナ刈谷でした。

ロボコン競技会場には、中央のメインセットと競技スペースを囲むようにして、審査員席、実況解説席、各高専応援団席(約500名分)、ライブストリーミング配信用ブース、ロボット整備作業用ピット(20チーム分)、ロボットの試走場などを配置するため、35m×45m程度の空間が必要です。それに加えて、一般客席(今回は2階に800席)、電源(AC100V20A×15程度)、バスやトラックの転回・乗降・積み降ろし・待機場所、放送用車両の設置場所、会議室(6部屋程度)、来場者(一般・参加者)受付や協賛者ブースの設置場所なども確保しなくてはなりません。勿論、交通の便の確認、会場費や空調費などの算段も必要です。これらの条件を満たした会場がウイングアリーナ刈谷でした。

番組の放映では1時間弱で全ての勝負が決する(ように見える)高専ロボコン地区大会ですが、準備は大会前々日の午前から、床養生、セットの組立て・ピット類の設営(配電工事を含む)・無線LAN環境の整備などの順で進められました。大会前日には、参加する20チームの学生とロボットを積んだトラックが会場へ到着し、予定通りにロボット40体(=2体/チーム×20チーム)がピットに収まりました。そして「競技会として見られる映像」を撮影するために、およそ8時間をかけて



設営の様子

全てのロボットの「試走(参加チームによる調整)」、「計量・計測(重量や寸法などのチェック)」、「テストラン(撮影側・審判団によるチェック)」が念入りにおこなわれました。大会当日、午前中のカメ



受付の様子



大会の様様

ラリハーサルを終えて、いよいよ開場。午後からの本番撮影に約5時間を要しました。

今大会の準備や運営では、「Teams」というビジネスチャットツールを用いて、「情報共有」、「意見交換」、「意思伝達」をおこないました。PCやスマホ上で実施要領や各種マニュアルなどを関係者で事前に供覧・チェックでき、全校(全学科・両課)体制で当日を迎えられて良かったと思います。

今大会の会場内にWi-Fi環境を整備して、「試走」・「計量・計測」・「テストラン」の進み具合や「試合の組み合わせ」・「試合結果」などを共有できるようにしました。運営側の私たちだけが便利だけでなく、参加者や観客の皆さまにも楽しんで頂けたと思います。

また、会場内には、技術職員と豊田高専ロボコン両チームの尽力で、「試走場」を2箇所を設置することができました。この例年のない試走場のおかげで、限られた時間内に多くのチームがロボットの調整・試走を行なうことができ、最高のパフォーマンスを目指す参加学生の皆さんのお役に立てたと思います。



撤収の様子

そして、ピットの電源(一校あたりAC100V10Aまで)を自前で配備したプレーカーで厳格に管理しました。「安全管理」全般に関して、機械工学科と電気・電子システム工学科の教員や技術職員の方々からの指導が行き届いていました。

大会を無事に終えることができましたのは、高専ロボコンに携わり、後進のためにノウハウを蓄積して下さった方々、適格な判断を下された審査員や審判団(豊橋技術科学大学の高専ロボコンOB学生)の方々、使命感をもって今大会に臨んだ豊田高専の学生の皆さんや教職員の力によるところと強く感じております。この場をお借りして感謝申し上げます。

本大会は、刈谷市との共催を始め、内閣府、文部科学省、日本機械学会、日本ロボット学会、電気学会、愛知県、豊田市、刈谷市教育委員会、豊田市教育委員会の後援で行われ、本校の教育後援会や同窓会にも協力頂きました。有り難うございました。

「確実な一歩」

Aチーム

技術部 池戸 さくら



今年度のロボコン地区大会は10/20(日)に愛知県刈谷市のウィングアリーナ刈谷で行われました。競技課題は「らん♪RUN Laundry」、手動操縦ロボットと自動制御ロボットが協力して、Tシャツ、バスタオル、シーツを物干竿に干す競技です。去年から課題である自動制御に加え、柔らかく変形しやすい布を確実に竿に掛けるという非常に難しい競技でした。

今年のAチームのロボットはアライグマの装飾が可愛い手動ロボ「ぶったん!」がエアシリンダを用い洗濯物の回収を行い、自動ロボの「ロン橋」が定加重ばねを使い、高速で伸びあがり、高い位置にある物干竿にバスタオルとシーツを掛けるというものです。

予選リーグの一戦目、石川高専Bとの対戦では、手動ロボが途中でバスタオルを落としてしまい、リトライに時間がかかり、2対0で負けてしまいました。

予選リーグの二戦目、富山射水Aとの対戦では、安定してバスタオルとシーツを回収できたものの、自動ロボが変形した衝撃で、バスタオルが落ちてしまいました。リトライをした後は自動ロボが順調に動いていき



ましたが、バスタオルをかけたのは試合終了1秒後でした。相手の富山射水Aもあと少しで得点というところで試合終了。0対0で、審査員判定により勝利できました。予選リーグで敗退してしまいましたが、学生たちが強い想いを込め、去年苦労した様々なトラブルを解決しながら作ったロボットで勝利することができたのは良かったです。まだ結果に繋がらない取り組みが多いのですが、新しい技術の習得や、技術知識の伝承など一步一步進んでいます。

最後に、日頃よりロボコン活動にご援助いただいている豊田高専同窓会、豊田高専教育後援会関係者の皆様、温かく見守ってくださる保護者の皆様、主管校として地区大会開催にご尽力頂きました教職員の皆様に心より御礼申し上げます。



第56回須賀杯争奪駅伝競走大会

学生主事補 一般学科 准教授 **加藤 貴英**

須賀杯争奪駅伝競走大会は、豊田高専学生会と名古屋大学体育会の共催で行われる駅伝大会です。本校初代校長の須賀太郎先生が両校のスポーツ振興を図ることを目的とした大会で、本校創立時の昭和39年に第1回大会が行われ、今年で第56回大会となりました。

今年は、11月10日(日)に名古屋市千種区の平和公園で開催されました。天候にも恵まれればか陽気の中、豊田高専から6チーム、名古屋大学から9チームが参加し、平和公園内のアップダウンが激しい1周約3kmのコースを6人(1人1周)でタスキを繋ぎ競いました。例年は豊田高専陸上競技部の長距離チームが上位を独占していましたが、今年は別の大会と重なり不参



加。その結果、今年の入賞チーム(1位から6位まで)は全て名古屋大学でした。豊田高専の参加者の大半が低学年であったため、いわゆる大学生との体力レベルの差が出た結果となりました。

第43回大会(平成18年)までは、スタート地点の豊田



高専からゴール地点の名古屋大学まで公道を走って競いました。全盛期は両校合わせて100チーム以上が参加していましたが、近年では参加チームが激減し昨年は25チームで今年が15チームでした。豊田高専と名古屋大学との日程調整も年々難しくなってきたことから、この歴史ある須賀杯争奪駅伝競走大会も在り方を見直す時期にきています。

環境都市工学科 教授 ^{やまおか しゅんいち} 山岡 俊一

今年度の全国高等専門学校デザインコンペティション(デザコン)は東京都大田区産業プラザPiOで12月7日(土)~8日(日)に開催されました。本校からは構造デザイン部門に専攻科建設工学専攻1年生の石崎晴也君、林大湖君、米川尚希君の3名1チームが参加しました。今大会のテーマは“カミっている!!”で、最初は??でしたが、橋を作る素材のことで、ここ数年続いた「銅」から「紙」に変更になりました。「紙」が持っている強さ、軽さ、しなやかさを十分に活かした橋の制作を競いました。

このチームは授業「建設工学創造実験」のテーマとして取り組みました。様々な検討をした結果、トラス構造を採用した橋を作ることになりました。最初は厚紙で各部材を準備するのに大変苦勞し、その後は各部材の接合部分をどうするかが難題となり、悪戦苦闘の日々でした。



大会本番では最大50kgの荷重に耐えないといけません、試作の橋は20kg~30kgのおもりで壊れる状況でした。そのような中、改良を重ねて本番用の橋を作成し、大会に臨みました。

さて、大会に参加した結果は、62チーム中54位と低い順位でした。しかし、これまで耐えられなかった40kgの荷重に耐えることができました。決して良い結果ではありませんでしたが、本番でチームの中での最高記録を更新でき、学生たちは悔しさも見せながら一定の満足感も感じていたようです。また、学生たちは他高专の軽量で強く美しい作品を見ることで、いろいろな刺激を受けたようです。今回のチームには構造工学の研究室の学生やデザコン経験者がいない中で、よく頑張りました。この経験を今後の専攻科での研究や生活に生かしてくれることと思います。



飛行ロボコン

飛翔!! 飛行ロボコン

機械工学科 准教授 ^{たなか としはる} 田中 淑晴

機械工学科 4年 ^{おおた かずき} 太田 一輝

第15回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト(飛行ロボコン)が、令和元年9月27~29日に大田区総合体育館にて開催され、本校からは一般部門1機(機体名:TRYZUN(トライズン) メンバー:機械工学科4年 太田一輝さん、5年 播磨朋紀さん、2年 松本成海さん)とユニーク部門1機(機体名:Zunbrella(ズンブレラ) メンバー:電気・電子システム工学科3年 光田隼さん、森田裕真さん、山下純八さん、情報工学科4年 川原拓真さん)がエントリーしました。一般部門は、宙返り・八の字飛行・物資の投下と回収など多くの定められた課題をクリアした達成点と時間点などによって評価されます。ユニーク部門は、機体の特長・チームの発表内容などによって評価されます。また、それぞれ英語でのポスターによるPRも行います。本校の一般機は主翼が大きいので、ゆっくりと飛行する

う特長をもちます。ユニーク機は、市販の傘の骨組みを利用し、運搬の際には折り畳むこと



ユニーク機をリリースする様子

ができる機体で、翼の材料も市販のビニール袋を使用するという特徴をもちます。また、機体の針路を変更させる際には、通常翼を動作させるのではなく、モータの位置を動かして推進力の方向を変化させて針路変更する珍しい構造をしています。大会では残念ながら良い成績を得ることはできませんでしたが、飛行ロボコンチームの学生は、限られた時間と設備の中で飛行機のアイディアを練り、製作・飛行試験を通じて、実現の難しさを学ぶとともに面白さ、楽しさを再認識したと思います。また、その楽しさを広め興味を持って頂けるように、こうよう祭ではグラウンドにて飛行機のデモ飛行を行い実機に触って頂くイベントや手作り飛行機を製作して飛ばす体験教室などの活動も行いました。今後も積極的な活動を行い、大会での上位入賞を目指します。



離陸準備中の一般機の様子

いちかわ ゆり
一般学科 講師 市川 裕理

第13回高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト (シングル部門、チーム部門)

11月9日(土)に東海北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(シングル部門)が開催されました。参加学生とプレゼンのタイトルは次の通りです。

いながき りょう
稲垣 怜さん (情報工学科5年):Face the Reality to Make Our Future

また、3人でプレゼンを行うチーム部門に“Kosen Leverage”というタイトルで、次の学生がエントリー(ビデオ審査)をしました。

なかがわ りょうた
中川 稜太さん (環境都市工学科4年)

よこやま もとほる
横山 最大さん (環境都市工学科4年)

なりた ことみ
成田 琴美さん (電気・電子システム工学科3年)

シングル部門、チーム部門ともに自らの経験を踏まえて、オリジナルのアイデアを練り上げました。英語の力はもちろんですが、学生たちの考えがブレインストーミングを重ねるごとに、深くなっていると感じました。残念ながら、予選は突破できませんでしたが、コンテストまでの道のりで、表現力や思考力が磨かれました。これを一つのスタートとして、次の機会につなげてほしいと願っています。



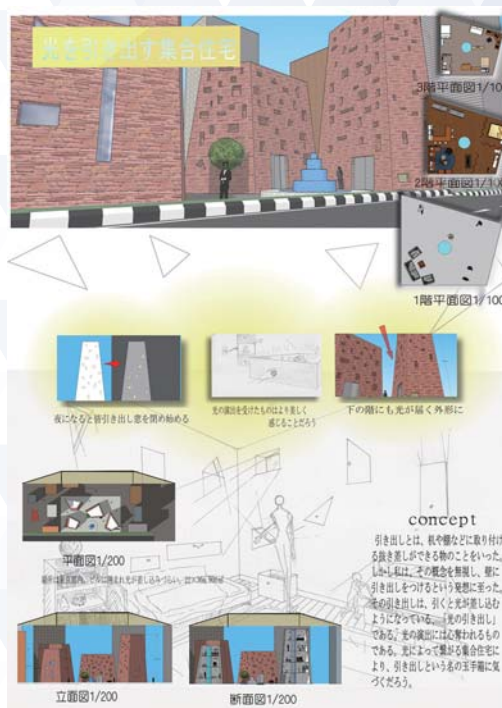
うえだ ひろと
建築学科 2年 上田 大翔

私は、第33回日本工業大学建築設計競技において、佳作をいただきました。今回の課題の内容は、光の魅力を表現すること。光の建築(光の体験が魅力的な建築)や光の状態を考え、また訪れたいくなる建築の提案を出すことでした。

この課題の製作中、最も考えさせられたものは“光を使って何をするか”という点でした。コンペ、いわゆる設計競技というものに初めて触れる私は、課題に求められているアイデアも、そのアイデアまでたどり着くプロセスも分からず、暗中模索状態でした。そんな時、その暗さに光を与えてくれたのが先輩の「光を使って建築とどう結びつけるか」という言葉でした。その言葉が、それまで物事の要(光を光、建築を建築と捉えていた簡明な案)にしか目を向けていなかった私の頭に新しい色を与え、「光の引き出し」という案に思い至ったのです。「光の引き出し」とは、四方八方引き出し付きの壁でできた建物で、引き出しを引くと外の光が差し込むように、中の光が溢れるようになっているものです。そして引き出し内に入っているものは、光の演出を受け、宝石のように光り輝くのです。私は、先輩に言われた「光を使って何をするか」という問いに対して、光の演出によって物の見方が変わるのではという発想をこの建築で導き出すことができました。

今回、この賞を取ることができたのは、先輩のアドバイスや手助けがあったからだと思っています。相手が求めているアイデア、それを考えるための参考資料、提出までのスケジュール、パソコンの

ソフトの使い方など、先輩には様々なことを教えてもらいました。これから臨む設計競技でも今回の経験や発想を活かして進んでいきたいと思います。



体 育 祭

体育委員長 環境都市工学科 4年 **横山 最大**

令和初の体育祭は天気が怪しまれるなか、無事に開催することができました。雨がぱらつくこともありましたが、あふれんばかりの学生の熱気はまるで雨雲さえも吹き飛ばしたようです。

本校の体育祭の魅力は真剣さだけではありません。至る所でひょうきんな場面が見られ、思わず笑ってしまう、この二面性を持ち合わせた豊田高専生らしさが、本校の体育祭の魅力でしょう。午前の競技を締めくくった応援合戦は1年生全員と3年生代表が長い間練習してきた応援演技を披露し、各学科の個性、団結力、情熱を、真剣に面白く表現していました。初めて体育祭に参加した1年生は体育祭の楽しさを実感したのではないのでしょうか。学科対抗の大戦略騎馬戦では、1年生から5年生の学生が学科ごとで一丸となってグラウンド全体で繰り広げる戦いはとても迫力があり、見応えがありました。また、応援する学生、先生方も「One Team」として一緒に戦おうとする姿はとても素晴らしいと感じました。

本校の学生は日頃から部活動等で練磨する学生、勉強や、プログラミング等に熱中する学生など、十人十色です。しかし、この体育祭を通じて全ての学生が、体力、学生間の友好、クラスの団結、どれもが向上すれば良いと思います。

最後に、この体育祭を含め、その他の体育行事の企画運営をさ



せていただき、非常に価値のある多大な経験をさせていただきました。今、このように楽しい記憶として残っているのは、先生、職員方、100人を越える体育委員、学生、それら全ての皆さんのおかげです。このように学校行事に携われたことをとても誇りに思い、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

これから先も、学生の笑顔あふれる体育祭および体育行事がずっと続いていくことを願います。

プログラム

1	開会式	7	昼休憩
2	玉入れ	8	障害物競争
3	女子競技	9	学科対抗スウェーデンリレー
4	クラス対抗リレー	10	大戦略騎馬戦
5	騎馬戦	11	閉会式
6	応援合戦		

成績

学科優勝	機械工学科
学科準優勝	電気・電子システム工学科
学科3位	情報工学科
クラス優勝	4年機械工学科
クラス準優勝	3年電気・電子システム工学科
クラス3位	3年機械工学科
応援合戦優勝	電気・電子システム工学科
応援合戦準優勝	建築学科



こうよう祭

Join us

なるもと しょうた
建築学科 4年 成本 翔太

11月2日(土)、3日(日)に行われたこうよう祭は、非常に盛り上がりました。週末雨天が多かった11月ですが、天候にも恵まれ大きな事故や怪我、トラブルなく終えることができました。

今年度のこうよう祭では目玉企画のスタンプラリー抽選会を行いました。これは、例年学生が行う展示への投票数を増やし、より公平な順位がつけられるようにという目的で一昨年より導入された企画です。今年度は投票時間を短縮して運営しましたが、昨年度の1412票に迫る1293票をいただくことができ、こうよう祭の盛り上がりを感じられました。抽選会の一等当選品であるディズニーペアチケットとユニバーサルスタジオジャパンペアチケットを当てた方々にも喜んでいただき大変うれしく思います。

また、二つ目の目玉企画としてお笑い芸人のインディアンズさんと天竺鼠さんの二組をお呼びしました。芸人ライブの際はプロのお笑い芸人のステージを見ようと、屋外ステージの前は観客の方々にいっぱいになり大いに盛り上げていただきました。たくさんの方々にご来場いただき大変うれしく思うと同時に安心しております。

このように多くの方々に足を運んでいただけたのは目玉企画だけでなく本当にたくさんの方々の協力があったものです。展示では4年生の学科展示、2年生のクラス展示、建築学科3年生が製作したゲー



ト、部活動や同好会による有志展示はどれも本当に素晴らしいものばかりで、豊田高専の技術力の高さに大変驚かされました。また、協賛をいただいた企業の皆様、ご指導いただいた先生方、学生支援係の皆様、ご来場いただいた皆様。そしてこうよう祭実行委員として会場の装飾やステージの設営、たくさんの方々のイベントの企画、見えないところでこうよう祭を支え、運営に携わってくれたパートのみんな。本当にありがとうございました。今年度スローガンとして掲げた『Join us(たくさんの方にこうよう祭に参加(Join)していただき、みんな(us)で盛り上がりよう!』のとおりこのこうよう祭にすることができました。

こうよう祭は地域の方々やご来場いただいた皆様に豊田高専について少しでも知っていただくことを目的として開催しているイベントです。こうよう祭で紹介できるのは豊田高専のほんの一部に過ぎません。このこうよう祭を通して豊田高専に興味を持っていただき、さらに高専について知りたいと思っていただけると幸いです。

皆さんの心に豊田高専・こうよう祭の思い出が残ってくると嬉しい限りです。来年度以降もこのこうよう祭の伝統が引き継がれ、さらにパワーアップしていくことを願い、信じています。ぜひ来年度のこうよう祭にも『Join us!』してください。



シラパコーン大学サマーコース体験記

機械工学科 5年 さとう がく 佐藤 岳

6月24日から6月30日まで、タイのシラパコーン大学のエンテックサマーコースに参加しました。私は、ヨーロッパ以外の国に訪れたことがなく、歳の近い海外の学生と交流したいと思い、今回のプログラムに参加しました。日本から9人、ミャンマーから3人の学生が参加しました。

到着日はバンコクを観光しました。マーケットで現地の新鮮なフルーツを食べたり、寺院で日本とは全く違う仏教文化にふれたりすることができました。

コース初日、しっかりコミュニケーションをとれるか心配していましたが、キャンパスまでの車の中でミャンマーの学生が話しかけてくれ、すぐに仲良くなることができました。

始めの4日間でキャンパス内の食品科学科、材料工学科、生物学科、化学工学科、機械工学科、

電気工学科の6つの学科の研究室見学、模擬授業を体験しました。材料工学や機械工学は、自分の学んでいる分野なので説明をしっかりと理解することができましたが、生物や化学などの学科は、見たことない装置が多く、英語での説明を理解するのに苦労しました。キャンパス見学以外にも食品製造の工場見学、宮殿や自然公園などにも行きました。

宿泊先では、毎晩のようにミャンマーの学生の部屋に行き、一緒にゲームをしたり、映画を観たり、自分の国のことを話したりして、英語で積極的にコミュニケーションを図りました。ミャンマーの学生とは、今でも交流が続いており、卒業旅行でミャンマーを訪れる予定です。

今回のコースは、自分の専門分野以外のことを学び、海外の学生とたくさん交流することができた非常に良い機会となりました。この経験を今後の生活に生かしていきたいと考えています。



シラパコーン大学での体験

建築学科 4年 むらせ ちあき 村瀬 千瑛

私は6月にタイのシラパコーン大学で、7日間のEntech Summer Courseに参加しました。Entechとはエンジニアリングと産業技術を組み合わせた造語で、工学を学ぶ日本、ミャンマー、タイの学生が集まりました。

私の参加動機は、タイに行ってみたい、もっと世界に友達を作りたいといった単純なものです。タイ語が話せるわけでもなく、英語も十分とは言えない状態でしたが、何よりも歳の近い海外の学生と関わりを持つことにとてもワクワクしていました。現地では、ミャンマー人の女の子と同じ部屋で寝泊りをし、フリータイムにはタイ人の学生とも互いの文化や学校のことについて話しながら交流しました。

コースでは、大学の工学関連の学科の模擬授業を受け、実際に学生が研究している内容を体験しました。残念ながら、私の専門である建築に関する講義はありませんでしたが、他の分野でも、食品

科学分野では味覚試験の体験、生物分野では細菌の培養体験と実践的に講義を受けることができ、新しい知識を身につける事の出来る新鮮な毎日でした。たった1週間の講義でしたが、自分の専門外のことにも目を向けて、日々の暮らしを豊かにしている技術について学びを深めることができる良い機会でした。また講義だけではなく、タイならではの寺院や宮殿の見学、産業技術に絡めた製菓会社の工場見学等アクティビティも充実していました。そのため、講義だけではあまり関わる事の出来なかった学生とも、このようなアクティビティやフリータイムを通して喋る機会が増え、今でもチャットを通じての交流が続いています。



今回のコースに参加して、学内に籠るのではなく、もっと外に目を向けて活動をしていきたいと改めて実感しました。豊田高専にも外国人留学生が多く在学しているので、皆さんも交流の輪を広げてみてはいかがでしょうか？





TJ-SIF(日タイ高校生ICTフェア) 2019参加報告

一般学科 講師 えぐち けいこ 江口 啓子

2019年12月19日(木)~22日(日)にタイのプリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール・ムクダハン校でTJ-SIF(Thailand-Japan Student ICT Fair)2019が行われました。このTJ-SIFとはプリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール(全12校)の国際交流を目的として2016年から行われているもので、今回が2回目となります。日本からはSSH指定校の高校生や豊田高専を含めた11高専の学生が参加しました。

TJ-SIFではIoT Application、Robotic、Automotive、Software、Smart Electronicの5つの分野のいずれかを研究テーマとしてエントリーし、ポスター発表とオーラルプレゼンテーションを英語で行います。豊田高専から出場した学生と研究テーマは以下の通りです。

"IoT Tea Japanese Green Tea with LPWA and IoT Solution"(IoT Application)

かみじょう はると いちはら よう 上條 遥都さん(情報工学科2年)、市原 陽さん(情報工学科2年)

"Practice of IoT Lecture and ICT Contest for Secondary School Student Using Single Board Computers"(Software)

おおいし けいと ささき ひりゅう 大石 啓登さん(情報工学科3年)、佐々木 飛龍さん(情報工学科3年)



2年生のプレゼンテーション



2年生のプレゼンテーション



フェアウェルパーティーで「恋するフォーチュンクッキー」熱唱



ウェルカムパーティーで交流中

TJ-SIFに参加した感想

いちはら よう 情報工学科 2年 市原 陽

今回のTJ-SIFにおいて、私は新たな経験をすることができました。失敗した事も多かったのですが、そこから学ぶ事もできました。

一つ目は、英語をただ与えられた教材から学ぶだけでは不十分だということです。私はグループワークのとき、タイ人の生徒と会話したのですが、訛りが強く、英語のボキャブラリーが豊富ではない私には相手の言っていることを推測して答えることもできませんでした。日本人以外で英語をネイティブとしない人と関わったことは、地味ながらも大きい

収穫だったと感じます。

二つ目は、やはりプレゼンの準備は時間をかけようということです。いざプレゼンが始まったとき、英語を熟知していない私たちは、あらかじめ作った原稿しか発表できず、時間が余ってしまいました。日本語のプレゼンと英語のプレゼンとでは、臨機応変の対応という面において雲泥の差が生まれます。だからこそ経験がない私たちは完璧な資料を作成することにも重きを置くべきだと感じました。

他にも思うことがあったのですが、ぜひ今度は皆さんがTJ-SIFに挑戦してみてください。

おおいし けいと 情報工学科 3年 大石 啓登

今回参加させていただいたTJ-SIFは初海外、初英語プレゼンなどなどたくさんの初体験をすることが出来、貴重な経験となりました。

プレゼンでは子供向けのマイコンとそれを使ったプロジェクトの活動を報告してきましたが、タイや日本の学生に限らず先生からも良い意見を頂きこれからも続けていきたいと思いました。

また、意外と文化の違いに戸惑うことも少なく楽しく過ごすことが出来ました。しかし、自分の英語力の低さとタイ

の学生の英語力の高さに唖然としました。その他にも様々な発表を見に行きましたがどれもレベルが高く、英語学習とプログラミング両方のモチベーションが大きく刺激されたのでこれからもっと頑張って実績を残せるようにしていきたいと感じています。

プレゼンやフィールドトリップを通して仲良くなった学生も多く、たくさん話をする事が出来ました。モチベーション以外にも得るものが多く、とても良い思い出となりました。

最後にこの機会を与えてくださった都築先生と江口先生にお礼申し上げます。ありがとうございました!

学生会だより

平成31年度役員(退任のあいさつ)

会長

情報工学科 4年 かわほら たくま 川原 拓真

会長とは名ばかりで威厳の欠片もありませんでしたが、お役に立っていただければ幸いです。お世話になった皆様に感謝&ご迷惑をおかけした方に謝罪すると共に、今後とも学生会をよろしくお願ひいたします。

副会長

建築学科 3年 すずき ほると 鈴木 陽登

様々な場で副会長としての役目を果たすことができたのではないかと思います。今年度の経験を次に生かしていきたいです。

一般会計

電気・電子システム工学科 4年 きむら よしひろ 木村 喜洋

次年度向けマニュアルを作成し、貢献することができました。ありがとうございました。

広報

環境都市工学科 2年 のむら こうすけ 野村 康輔

初めての学生会経験でしたが、この一年間様々なことを学ばせていただきました。これまでやってきたことを熱意溢れる新役員に託し、また自分自身も学んだことを生かしていきたいと思ひます。



書記

環境都市工学科 5年 あおやま ひろき 青山 紘己

4年間続けてきた学生会もこれで終わりです。最後の1年は、改革を起こそうと後輩連役員が最力を注いだ1年だと思ひます。本当にお疲れ様でした。

書記

環境都市工学科 3年 いとう はるな 伊藤 春菜

1年間書記として学生会に関わり、たくさんの事を学ぶことが出来ました。この経験を様々な活動に生かしていければと思ひます。

内務

建築学科 2年 のちと りおん 野本 吏温

一年間、学生会の一員として仕事をすることができて楽しかったです。お世話になった先生方、学生会の皆さん、ありがとうございました。

令和2年度役員(新任のあいさつ)

会長

建築学科 3年 すずき ほると 鈴木 陽登

新メンバーと共に行事運営・交流会などさまざまな活動に取り組んでいきます。皆さんの学生生活の支えになるよう努めていきます。どうぞよろしくお願ひします!

副会長

環境都市工学科 2年 のむら こうすけ 野村 康輔

新しい一年間、新しいメンバーと共に、新しい学生会をつくりあげ、皆さんに新しい楽しみを、新しい笑顔を提供していきます。

副会長

情報工学科 2年 ささやま らいが 笹山 雷雅

執行部の経験はありませんが、前任者からしっかり引き継ぎをして、学生がより良い活動を行えるように頑張ります。

一般会計

建築学科 3年 すずき とうや 鈴木 統也

一般会計としての職務を円滑に行い、学生生活を支援していけるよう精一杯頑張ります。そして、学生会全体をサポートしていけるような存在になります。

広報

環境都市工学科 2年 いらいし しょうた 稲石 翔太

執行部の経験はありませんが、広報としてこの学校の良さを外に発信できるように頑張ります!よろしくお願ひします!



書記

情報工学科 4年 かわほら たくま 川原 拓真

培ってきた経験、スキルを駆使して学生会、そして学校をよりよくしていけたらと思ひます。基本的に後方保護者面で、後輩連をしっかり支えていきたいです。(院政はしません)

書記

建築学科 2年 ささやま まゆ 杉山 真悠

私は目標として、学校全体に新しい風を吹かせることを掲げます。その為に精一杯努力をしたいと思ひます。

内務

建築学科 2年 くした はな 榎田 花那

女子が二人いるという珍しい環境で、学生のみなさんに身近に感じてもらえるような学生会にしていきたいです。精一杯務めます!

学寮だより

平成31年度寮生会 退任のあいさつ

機械工学科 5年 鈴木 温人

今年度も寮運営にご協力してくださった先生方、寮職員の方々ありがとうございました。副寮長、寮長として2年間も寮運営に携わってきて、寮の成長を感じられたのはもちろんですが自分の成長を一番感じることができました。先生との運営会議、役員会、アセンブリの準備・運営、他高専との交流会などを経験することで自分の考える力・話す力・聞く力などたくさんの力を手に入れました。このような貴重な機会をくださったことに感謝します。皆さんもぜひ寮運営に携わって、寮とともに自分も成長してみてください！

電気・電子システム工学科 5年 永田 大晴

寮生会に入ると先生方を交えて1週間に1回会議を行い、時には他高専に出向いて意見交換をします。先生方や他高専の学生と話す中で豊田高専の学寮の良さや課題について考えることが出来ました。これからの糧になる貴重な経験だったと思います。ありがとうございました。

機械工学科 4年 鈴木 日向

今年度副寮長を務めさせていただきありがとうございました。会計の仕事、役員会、交流会などさまざまな場を通じて大いに成長することができました。この経験を大切にしていきたいと思います。1年間ありがとうございました。



建築学科 4年 佐野 泰洋

1年間副寮長として様々な経験を、寮運営に携わらせていただきました。役員会や運営会議などの普段の出来事から他高専交流という大きな行事を全て通して、豊田高専の学寮の良さや誇りを改めて感じる事が出来ました。本当に充実した一年間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

建築学科 4年 中富 彩奈恵

豊田高専の寮の素晴らしさを運営会議や他高専との交流会などを通して改めて気づくことができました。この寮は先生方、各委員会、指導学生、寮生会、寮務係の方々が寮運営について一生懸命に考え、寮生の協力のもと成り立っていることを実感しました。仲間に恵まれ、寮運営に副寮長として携わり貴重な経験ができたことを本当に感謝しています。

令和2年度寮生会 新任の挨拶

機械工学科 4年 鈴木 日向

来年度寮長を務めさせていただきます鈴木日向です。これまでの副寮長としての仕事で得た経験を活かしつつ、この学寮でしか味わえない楽しさ、刺激を次の世代と共有できるよう、さらなる寮の改善に努めてまいります。1年間よろしくお祈りします。

建築学科 4年 佐野 泰洋

平成31年度に引き続き令和2年度も副寮長を務めさせていただきます佐野泰洋です。前年度で得た知識や経験を基にして、この豊田高専寮を支えていきます。また、寮長の仕事の負担を軽減するために積極的にサポートすることや、最高学年として今後この寮を引っ張っていくことになる後輩を育てる副寮長になります。そして、たくさんの人と関わりを持ち、多くの情報を発信することを目標に精一杯頑張ります。一年間よろしくお祈りします！

機械工学科 3年 前田 雄祐

この度副寮長を務めてさせていただきます3年機械工学科の前田雄祐です。今年は班長を務めさせていただき、寮生活の楽しさを改めて感じました。寮生の皆さんが寮生活を楽しいと思ってもらえるように精一杯頑張っていきます。一年間よろしくお祈りします。



電気・電子システム工学科 3年 藤田 昂大

この度副寮長を務めさせていただくことになりました藤田昂大です。班長生活を通して、今の寮に対して多くの要望や意見があることに気づかされました。副寮長として寮長を支えながらそれらを少しでも実現できるように頑張ります。1年間よろしくお祈りします。

電気・電子システム工学科 3年 成田 琴美

寮を改善し、居心地の良いものへ。そのために、他高専の寮から良いアイデアを取り入れ、みなさんの意見、先生方の意見に丁寧に向き合っていきます。副寮長として、精一杯頑張りますので、よろしくお祈りします。

卒業生メッセージ

▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか

5年間の寮生活です。指導寮生として過ごした2年間は特に印象に残っています。低学年や班長と遊んだり、くだらない話をしたりして毎晩楽しい時間を過ごさせてもらいました。その反面、苦労したことも多々ありました。私は指導寮生という組織が現状に満足して停滞しているように感じており、その状況を何として打開したいと考えていました。当初は、行動を起こせば少しは変化が生まれると思っていました。しかし、現実はそのような甘いものではなく、何も変えられないことにやるせなさを感じていました。

うまくいかないことばかりで投げ出したくなることもありましたが、低学年や班長と過ごす時間を思えば、どんなことでも乗り越えられました。悩みの種も、それを解消するきっかけも寮にあると思うと本当にすごい場所なのだと思心するばかりです。

▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします

「目標がその日その日を支配する」

これは横浜高校の創始者である黒土四郎さんの言葉です。目標を立てること自体は多くの人が行っていると思いま

わかその
情報工学科 5年 若園 マユコ



す。では、目標を達成するために綿密な計画を立てている人はどれだけいるのでしょうか。なんとなく目標を立て、なんとなく過ごしてはいつまでも目標を達成することはできないと思います。

5年間は長いようであっという間に過ぎていきます。目標を達成するために自らの行動を振り返り、改め、自己研鑽に励むことでより有意義な時間を過ごせるのではないかと思います。

▶ これからの抱負を聞かせてください

来年度から社会人になります。100名を超える同期がいる中で、良い意味で目立っていければと思います。そのために、何事にも積極的に挑戦する姿勢を大切にしていきたいです。まずは、4月上旬の新入社員研修でよいスタートが切れるよう頑張りたいと思います。

▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか

私は寮での役職の経験がなく、また留学経験もなかったという体験談を持たない、ごく普通の豊田高専生です。なぜこの文章を書くのかというと、真面目でそこそこ優秀な成績を残してきたからでしょう。そんな私が高専生活で最も印象に残ったことは、大学の編入試験に合格したことです。このおかげで、私の高専生活における頑張りが無駄ではなかったと気づくことができました。また辛い期間だからこそ、協力してくださった先生、友達のありがたさに気づき、人間的に成長することができました。

▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします

私が在校生に伝えたいことは、何のために豊田高専に入学し、勉強しているかを忘れないことの大切さです。もちろん、その上で目指す進路が変わることもあると思います。そうなったとしても、自分の納得できる未来に辿り着けるよう頑張る時には手を抜かずしっかり頑張ることがとても重要です。例えば、部活、寮の役職などに一生懸命取り組むことは大切なことだと思いますが、そこに集中しすぎて他が疎かに

すぎもと そうい
建築学科 5年 杉本 宙威



なってしまうと感じた時には「なんとかやる！」ではなく、自分の周りの環境や能力を客観視してどうしていくべきかを定めることも大切だと思います。その分、テストの点数やTOEICのスコアを上げたり、日々のレポートに真剣に取り組んだり、バイトをしてお金を貯めるなど、時間をどこに使うかは自分次第ですが、このような地道な努力で得られる結果は大きかったと感じています。

▶ これからの抱負を聞かせてください

4月からは大学へ進学します。ここまで偉そうなことを書いてきたので自分が墮落するわけにはいきません。周りのレベルも非常に高いと思うので負けないように、また将来後悔しないよう、自分と向き合いながら初心を忘れず生活していきたいです。

▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか

異文化交流です。私は高専5年間のうち、留学とロボカップ世界大会への出場で5か国へ行き、10か国以上の人達と交流してきました。国によって環境や文化が違うため他の国の人達と交流するのは新鮮でありたくさん学ぶ事がありました。留学では約11か月、日本とは違う環境に身を置き、現地の人達と交流する中で自分の視野の狭さや自分の中の常識が偏見であったことに気づかされました。また、ロボカップ世界大会では、国が違う人達と同じ目標に向かい研究開発をする面白さを知りました。これらのことは高専に入ったからこそ学べた、経験できたことなので高専を選んでよかったなどと改めて思いました。

▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします

自分がやってきたことに対して自信が持てるように、勉強でも趣味でもバイトでも、中途半端に継続するのではなく全力でやってほしいと思います。中途半端な継続は力になりません。



おおの しん
機械工学科 5年 大野 真

短期間に全力でやる方が力になると高専5年間で感じました。さらに、高専という特殊な環境にいるのに普通の高校でもできることをやっているのは損だと思っています。なので、この高専という自由度の高い環境で自分の強みを探し、他との差別化をしてほしいと思います。

▶ これからの抱負を聞かせてください

私の夢は自分の工房を持ち、独立し、製品、作品をつくることです。なので、まずは周りから必要とされるエンジニアを目標に頑張っていきたいと思っています。誰にでもできることができるエンジニアではなく、誰にもできないことができるエンジニアを目指し、企業で埋もれないように全力で頑張りたいと思います。

▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか

ロボコンです。私は3年間ロボコンAチームに所属し、主に部品の製作やロボットの設計を担当していました。3年生のときはロボットの設計をひとつ担当し、大会本番ではピットメンバーとして参加しました。そのときの、半年かけて自分たちが作ったロボットが正しく動作し試合に勝利したときの喜びをとてよく覚えています。3年間のロボコンの活動を通じて、自分たちでアイデアを考えて一からモノを作り上げていくということやたくさん失敗したこと、自分の専門外のことについて学ぶなど貴重な経験がたくさんできたと思います。

▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします

チャレンジしてみてください。勉強でも部活動でも趣味でもなんでもいいです。貴重な高専の5年間をただ受け身で授業を受けているだけではもったいないと思います。私は何も専門的な知識がありませんでしたがロボコンに挑戦しました。ロボコンを引退した後はアルバイトや一人旅に挑戦しました。どれも貴重な



きむら まさゆき
電気・電子システム工学科 5年 木村 将之

経験ができ、挑戦してよかったと思っています。また、たくさん失敗もしました。それでも自分から動いて何かしたことは今後経験として生きてくるとしています。高専は自由度が高く、やりたいことがやりやすい貴重な環境です。ぜひいろんなことに挑戦してみてください。

▶ これからの抱負を聞かせてください

来年からは愛知県内の企業に就職します。エンジニアとして具体的にどういう仕事をするか未定ですし、高専で学んだ知識がどこまで通用するかはわかりませんが、自分にできることから頑張っていきたいと思っています。また、休日は趣味を楽しんだり、会社の方にはクラブ活動などもあるので先輩や同期とそれらをやったりして充実した生活を送りたいです。

▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか

豊田高専での思い出はたくさんありますが、特に印象に残っているのは、5年間の寮生活とフィンランド留学です。

寮生活では、尊敬する先輩方と可愛い後輩に囲まれて楽しく過ごすことが出来ました。みんなで部屋に集まって話したり、鍋を囲んでご飯を食べたりと毎日の生活が良い思い出です。この豊田高専の寮で過ごした5年間は私にとって大きな財産であり、今後の生活でも糧になっていくと思います。

1年間のフィンランド留学では、私の第二の家族と言えるホストファミリーに出会うことができました。留学当初はフィンランド語を話すことができずとても苦労しましたが、ホストファミリーや学校の友達に支えられ充実した1年を過ごすことができました。1年間の留学生活で精神力とチャレンジ精神が身に付きました。

▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします

どんなことにも臆せず、どんどんチャレンジして欲しいと思います。高専は他の学校と比べると、(いい意味で)自由で時間もたくさん



せら みき
環境都市工学科 5年 世良 美樹

あります。勉強をすることはもちろんのことですが、新しい趣味を見つけて、自分の可能性を広げていくこともできます。また、長期休暇などを利用して、旅行にでて視野を広げてみるのもいいかもしれません。私は、海外旅行が好きで5年生の夏休みに東南アジアをバックパック1つで旅をしました。世界遺産のアンコールワットに行ったり、象に乗ったり、寺院を自転車で巡ったり、ホームステイをしたりしました。これから社会人になっても、たくさんの国に旅行出来たらいいなと思います。

▶ これからの抱負を聞かせてください

4月から県内の市役所に就職します。実家からの通勤であり環境は変わりませんが、早く仕事に慣れ、皆さんの日常生活を支えることができる技術者になれるように日々精進していきます。5年間お世話になりました!ありがとうございました!

修了生メッセージ

積水成淵の心構えを得た7年間

情報科学専攻 2年 やまむら しょう 山村 昇



豊田高専に入学して本科5年と専攻科2年の月日が経ちました。この7年間の中で楽しいこと、辛いこと様々な出来事がありました。その出来事は豊田高専でしか体験することができない貴重なものばかりで、自分自身を大きく成長させた大きな要因の一つであったと感じます。

本科は、勉学や交流を積み上げる5年間でした。勉学の面では、ロボコンでアセンブリ言語やC言語を学び基礎的なプログラミング言語を習得しました。また、長い夏休みや大学受験がないことを利用して、情報技術者試験をはじめとした資格の取得に努めました。5年生のころには、4年間で積み上げた知識がどれほどなのか企業と合同で行う卒業研究にて体感させていただきました。交流の面では、寮や部活動にて大きく年の離れた先輩・後輩と交流したり、5年間変わらないクラスの中、水魚之交とも呼べる友人ができたり高専ならではの体験をしました。

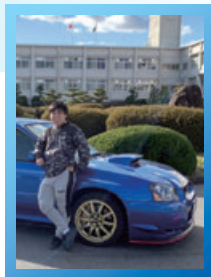
専攻科は、本科で積み上げた専門知識などを水滴石穿に利用する2年間でした。企業の方々や他学科の学生と協力して一つのモノ

を作り上げる一気通観や特別研究、学会発表、ETロボコンなど実践の場が多くあり経験を積むことができました。特に私は専攻科では超電導回転機について研究を行っていたためその分野の人と多く関わることができ様々な考えに触れることが出来ました。また、専攻科の授業は本科と大きく異なり、単純な講義だけでなく輪講やグループディスカッション、発表を取り入れた授業が多く、自主性を持って参加することができました。さらに少人数で本科よりも手厚いご指導のため、内容の濃い授業を受けることができたり、他の学生とお互いの得意分野を教えあうことが出来たりしました。

私はこの7年間で高校や大学でできないことをこの高専で得ました。私はこの得た経験を糧に水到渠成日々精進しようと思います。

小学校より長い豊田高専

電子機械工学専攻 2年 すずき ゆうま 鈴木 悠真



こんにちは。この広報が皆さんに配られる頃、私はきちんと専攻科の課程を修了できていますか?修了できている体で書かせていただきます。まず私が、高専に7年間通って感じたことを素直に述べたいと思います。

一つ目は、親身になって考えてくれる教員がいるということです。私は何度も研究活動において躓くことがありました。その度に、まるで自分のことのように考えて下さり、一緒に解決法を導き出すことができました。研究以外でも、進路のことなども真剣に考えてもらい、本当に感謝しています。豊田高専は学生が主体です。学生の相談、要望を聞いてくれない教員なんているはずがありません。皆さんも何か考えることや、迷いがあれば遠慮せずに相談に行くといいたいと思います。

二つ目は、社会に出て役に立つ術を学ぶことができることです。専攻科のカリキュラムの中で一気通観というものがあります。一気通観というのは、社会人と学生がそれぞれ約3人ずつで1班と

なり、そのメンバーで協力して、出された課題に対して設計から製作、運転までを1年通して行うというものです。本来、このような経験は社会に出てからではないと味わえないものであり、学生時代に経験できたことは自分にとって、とても良い経験になりました。

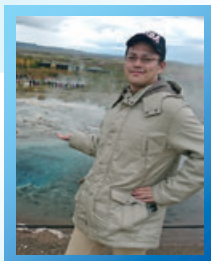
そのほかにも、寮生活、学生生活、こうよう祭、体育祭、部活動など書きたいことは山ほどあります。皆さんも豊田高専で過ごした5、7年間は絶対に忘れられないものになると思います。この先、就職する人、進学する人、留年する人、進級する人いろいろな進路があると思います。学ぶところはきちんと学び、遊ぶところはきちんと遊び、高専生活をかけがえのないものにして、これからの人生に役立たせて下さい。

挑戦できる環境

私は昔から自分に自信がなく、物事に対して憶病で嫌なことからはすぐに逃げ出す人物でした。特に小学生の頃はそれが顕著で、家庭訪問の際にクラス担任の先生からは「言われたことはきちんとこなすが自分から一歩踏み出して新しいことに挑戦することはない」と評価を受けたことは未だに忘れられません。

高専に入ってからそのような性格が変わることはしばらくありませんでした。しかし学年が上がってゆくにつれて徐々に変化が訪れました。周りの同級生が留学へ行ったり、ロボコンに参加したりすることに影響を受けたのかもしれませんが、自分も何かに挑戦しなければならぬと思うようになりました。それからは自分の学んでいる分野を活用できるようなコンテストや大会などに挑戦するようになりました。これは高専がもつ他の学校とは違う環境が私を成長させたのだと思います。私が挑戦した行事はよい思い出となり、それと同時に良い経験

なかむら りょうや
建設工学専攻 2年 中村 稜也



にもなりました。特に、現場での作業中にトラブルに見舞われた際にどのように解決すべきか、などの授業では学べないような部分を学ぶことができたのはかなりの収穫であったと思います。

高専は自分の学科に関連するコンテストや大会などに参加しやすい環境が整っていると思います。必要な知識に関する書物は図書館に多数所蔵されています。また的確なアドバイスをしてくれる教員、先輩の方々もいらっしゃいます。後輩たちにはこの高専の素晴らしい環境を活用して多くのことに挑戦し、自分のステップアップへとつなげてほしいと思います。

それから最後になりましたが、教員や職員の方々、同級生や後輩の方には大変感謝しています。ありがとうございました。

将来は大工さんになりたい

小さい頃から建築に興味を持っており、進路で悩んでいた際、親に高専という選択肢もあることを教えてもらいました。本科と専攻科で計7年間、建築を学び、将来は大工ではないですが、建築関係の就職先を選べたことは感慨深いです。

専攻科に入り感じたことは「本科よりも発表する機会が多い!」ことです。専攻科1年では、大学教授や民間企業の研究者など様々な建築分野の専門家が参加する日本建築学会で発表させていただきました。また、専攻科の授業では、20-30分程の時間を用いて自分が授業を行うといったことも多々ありました。発表することで、多方面から問題に対応する柔軟性、計画性、限られた時間内で明確に情報を伝達する力を習得することができました。

本科に比べ、専攻科は自由な時間も多いためです。しかし、ただ授業を受けて、特別研究をして、空いている時間にアルバイトをして…を

はたの ゆい
建設工学専攻 2年 波多野 裕依



淡々とこなすだけでは、何も成長しない2年間になる可能性があると感じました。自分次第で有意義な時間を過ごせるかどうかは決まると思います。

私は専攻科で進路や研究、人間関係についてとても悩みました。2年間で悩み・考えると同時に、自分が周りにどれだけ恵まれているか実感できたことは、これから先の自分の力になると感じています。勉強もとても大事ですが、色々なことに挑戦し、失敗しても許されるうちにたくさん失敗し、たくさん考え、周りに頼りながら、自分なりの答えを出す経験も大切なことだと私は思います。

未熟な私を全力で支えてくださった家族、先生方、友人には大変感謝しています。

豊田高専での7年間

豊田高専に入学してから7年が経ち、ついに卒業を迎えることとなりました。本科での5年間や専攻科での2年間は今後社会人になる身として代えがたい経験となりました。この経験の中でこれまで支えてくださった教職員の方々や先輩、同級生、後輩そして家族への感謝をはじめに申し上げます。

さて、7年間に学んだ豊田高専ですが私は課外活動に注力して過ごしました。本科では、寮生活で班長・指導寮生をし、部活動では5年間所属した陸上競技部で主将を務めました。専攻科になると主に研究活動に注力し、外部の研究発表会では大学院生に混じり発表を行い優秀発表賞を受賞することができました。

私が思う高専の特徴として、高校生や大学生に比べ実践的な活動をするチャンスが多いということがあります。座学で知識を深めるだけでなく実際に手を動かして問題に直面し、解決の道筋を立てられるというのが高専生の強みです。特に、課外活動への参加はその強み

かどわき しゅん
電子機械工学専攻 2年 門脇 駿



を磨くことができるひとつのきっかけです。

豊田高専には寮生活や部活動、外部のコンテストへの参加、留学等、様々な活動をするチャンスが転がっています。また、それらに挑戦する時間的な余裕も、高校生・大学生と比較すると多くあります。高専が他の学校と比べ劣っている部分はもちろんありますが、高専でしかできないことは多くあると思います。ぜひ、在校生の方々には授業だけでなく様々な活動に参加し、新しい考え方にふれる事や自身の才能を発掘するきっかけにしてほしいと思います。

最後になりますが、中学時代特に目立った活動をしていなかった私が様々なことにチャレンジできたのは、高専という環境があったからこそだと思います。今後、高専生活で得た経験を糧に社会で活躍することで高専への恩返しができたらと考えています。

外国人留学生 卒業メッセージ

日本での3年間

日本に来て3年が経ちました。母国で約2年、日本語学校に通ってから日本へ来ました。日本語の勉強はすごく難しかったです。マレー語は漢字のようなものではなく、文法は日本語と反対なので、慣れるまでに苦労しましたが、先生方が丁寧に教えてくれたおかげで、徐々に日本語を覚えることができ、勉強も少し楽になりました。

豊田高専に入学してからの3年間のなかで様々な勉強ができ、新しく豊かな経験もでき、気づかないうちに自分自身も成長しました。最初は話したいことがうまく話せず、会話もうまくできませんでした。先生方や

電気・電子システム工学科 5年 **リヤナ**

チューター、クラスメート、寮の友達、寮母さんがたくさん教えてくれたり、いろいろ話してくれたおかげで、日本語も前より上達しました。来年からは日本の大学に進学するのでごく役に立つと思います。これからも、もっとうまく話せるように日本語を頑張って勉強します。今までの思い出を心に留め、これからも立派な人間になれるよう努力したいと思います。



死ぬまで成長し続けよう

環境都市工学科に所属しているアイヴェスです。出身国はマレーシアで、日本で約3年間過ごしました。初めて日本に来たときは、知らないことだらけで困ることもありましたが、一番困ったことは、日本語があまりうまく話せなかったことで、コミュニケーションを取ることが難しかったです。私はコミュニケーションがとても大切だと思っているので、学校の勉強だけでなく友達と日本語で話すことも一諸懸命頑張りました。豊田高専では先生たちに様々なことを教えてもらって、自分がこの3年間にど

環境都市工学科 5年 **アイヴェス**

ンドン成長していると感じています。この学校から、豊かな経験だけでなく、豊富な知識も得られました。学生たちは留学生に対してとても優しく、快適な環境で生活しました。私は来年度から、北海道の大学に進学しますが、この3年間の思い出はすべて忘れずに、心の中にずっと残し続けたいです！また機会がございましたら、皆さん是非会いましょう！豊田、ありがとうございました！



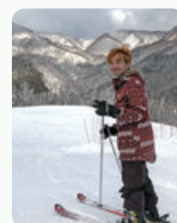
豊田高専での3年間

豊田高専での3年間の生活で、苦労したことや楽しかったことが山ほどありました。そして、日本に留学したおかげで多くのことを学ぶことができました。

高専に来る前、私は日本で日本語が上手に喋れないと生活が辛いと思っていました。しかし、この3年間で色々な人と出会い、私の思っていたことが杞憂であったことがわかりました。私を理解し、日本語でも英語

建築学科 5年 **メター**

でも話し合ってくれる人に恵まれ、楽しい生活を送ることができました。高専の先生方と日本人の学生に囲まれ、いろんな思い出や経験が私の人生を充実させてくれました。ありがとうございました。



人生ゲーム

人生と名乗るゲーム体験しましょう。人生というゲームにチートはつきものです。わざわざ全部のミッションを自分で乗り越える必要はありません。チートを利用しましょう。チートが使える所ではチートを使ってもいいです。そのチートとは一体何だと思いませんか。それは人間です。先輩、先生、両親、友人、知り合いなどの様々な人です。君にはまだ知らない人生の体験があります。しかし、その体験をもう既に誰かがしているはず。聞いてみましょう。それが人生ゲームのチートです。

みんなが知っているの、聞けばわかります。また、このゲームにチー

建築学科 5年 **サロール**

トが使えない所があります。ずっとチートを使っただけでもゲームは楽しくないでしょう。だから、たまに自分で体験しないといけない所が出て来ます。この人生というゲームもクリアするために自分の能力に頼ること、誰かの知識や体験に頼ることが必要です。人生が苦しいとか、わからないとかを考えずに、「人生はただ一つのゲームなんだ」と思えば楽しいものです。



オープンキャンパス

かめや えみこ
建築学科 准教授 亀屋 恵三子



今年度(2019年度)のオープンキャンパスは、秋晴れが広がる中、開催されました。オープンキャンパスは、毎年、中学校の生徒、保護者、先生、または教育関係者を対象に、本校の施設や設備、学生生活や寮生活、学科の特色など、魅力を感じてもらえるよう、学生・教職員が一丸となって取り組んでおります。

今年の参加者数は1238名(土曜日524名、日曜日714名)で昨年度と比較して200人以上、人数が増加しました。昨年度も100名以上の増加があったことから、2年前と比較して300人以上、来場者が増加していることとなります。また、本校他、休日各地域で開催している学校説明会への参加者も軒並み増加しており、多くの方々に豊田高専を知っていただいていることを実感しております。これはうれしい悲鳴です。

しかしながら、なぜ急に参加者が増えたのかについては、よくわかっておりません。魅力発見フェスタや新聞・マスメディア等での特集が浸透した結果とも考えられますが、豊田高専の魅力は尽きませんので、来年度も積極的に参加していただけたらと思っております。

例年同様、本校学生による案内や説明などの活躍が目立ち、各公開場所における学生の対応について、来場者の方からお褒めの言葉を多く頂戴しました。学生の対応が真摯で丁寧であることで、より深く豊田高専を理解できたとの内容がアンケートに多数記入されていました。教員ではなく、年齢的にも近い学生から直接説明を受けることで、中学生や保護者の方も5年後の姿を重ねやすく、質問もしやすいことが高評価につながったのではないかと思います。これは教職員にとっても大変うれしいことで、来年度に向けての大きな励みになります。



セキュリティコンテストのすすめ

おおもり たかみち
情報工学科 5年 大森 貫通

私は、平野研究室の4人のチームで10月26日に行われたKOSENセキュリティコンテストに出場しました。その結果、49チーム中9位の成績を残すことができました。

セキュリティコンテストとは、情報セキュリティをテーマにした競技の総称で、プログラミングコンテストとは異なり、ものづくりや競技プログラミングのコンテストではありません。

今回のKOSENセキュリティコンテストはCTFと呼ばれるルールで行われました。

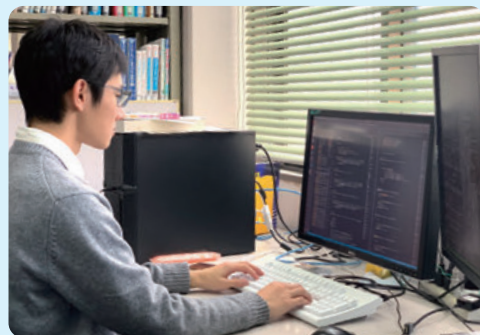
CTFとは Capture The Flagの略で、問題に隠された答えとなる文字列(フラッグ)を早く探して解答する競技です。情報セキュリティの中でも主にリバースエンジニアリング、ネットワーク、Webなどから出題されます。これらの分野を一人で網羅するのはとても大変なためチームを組み、メンバーそれぞれが自分の能力を活かして協力することがとても大切になります。

セキュリティコンテストの面白さは、その幅の広さにあると思います。今回行われた高専セキュリティコンテストはCTFでしたが、他にも、実際の企業ネットワークを模擬した仮想環境でインシデントに対応する危機管理コンテストなども存在します。

一言にセキュリティといっても分野はとても広く網羅するのは大変です。実践的な知識をつけるためのきっかけ作りという意味でもセキュリティコンテストに取り組むのは大切だと感じました。

優れたサービスでも、大きな脆弱性が見つかるとその後のサービス継続が難しくなる場合があります。そのため、開発者はものを作る方法だけでなく、作ったものを守るための方法を学ぶことが大切だと言えます。今回のKOSENセキュリティコンテストで出題されたWeb分野での脆弱性は実際のWebアプリでも起こり得るものばかりでした。

今回の学びを活かし、これからはものづくりだけにこだわらずセキュリティなども含めた多様な分野での経験を積みたいです。



教育改善推進室の取り組み

教育改善推進室長 機械工学科 教授 かねしげ あきひろ 兼重 明宏

令和元年度高専機構の年度計画に従い、本校では、教員の学生指導能力向上と実践力を高めるため、大学等学外で開催されるFD (Faculty Development) 研修へ積極的に参加するとともに、FD関連のセミナーやシンポジウム等の開催、教員間の連絡会合等の教員が集まる機会を活用して積極的にFD活動を行う。また、外部機関と連携した各種研修等にも参加を促すこととしています。これらの年次計画に対して、学外のFD研修としては、日本工学教育協会が開催した「AL (Active Learning) 教授法 (6月8日)」への参加、第3ブロックの「AL推進研究会」(5月29日、8月22日、11月22日)へ参加をしています。学内のFD活動としては、新任教員交流会を6月4日に開催、学生教育、指導等に対する自由な意見交換の場として、TOYOTA Round Talkを7月18日と11月29日に開催、Office365を活用した学生教育と指導に関するFDセミナーを11月26日と28日に開催しています。

一方、教育の質向上及び改善のため、ディプロマポリシー*)に基づく到達目標の確認を2月末までに行う。地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習PBL (Project-Based Learning) の実施状況を1月末までにまとめ、新たな試みの検討を行うこととしています。そして、CBT (Computer-Based Testing) や学習状況調査等により学生の学習到達度・学習時間を確認するシステムの構築、AL等優れた教育実践例を11月末にまとめて、例年実施している教員相互の授業公開前に学内の教員へ公開して授業改善の一助としています。

このように本校教育の質向上のためのFD活動、その活動や成果(学習の到達度)のエビデンスを基に、教育改善のスパイラルアップを図っています。

*) https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/

キャリア教育支援室

キャリア教育支援室より

キャリア教育支援室長 機械工学科 教授 しみず としひろ 清水 利弘

キャリア教育支援室の活動の半分は、学生の皆さんの進路支援です。もうずいぶん前にキャリア教育支援室ができた当時から、社会の情勢としての就職活動は様変わりし、企業の動きは年々早まってきています。

特に、多くの学生が第4学年に経験するインターンシップの重要性が高まってきています。単位になるからと楽そうなインターンシップ・プログラムを選ぶのではなく、ある程度自分の将来の選択肢として考える必要が出てきています。会社がどんなところか、働いている人はどんな人たちか、しっかり見てきてください。もちろん、皆さんも企業から見られています。必要以上にかしこまることはないですが、夏休み前にビジネスマナー講座で習うことを活用して、たとえ、志望する企業ではなくとも、社会人予備軍としてふさわしい態度で臨むようにしてください。

低学年の皆さんは、自分のやりたいことを見つけて、それをできるだけすぐに実行してください。何もしないでいると時間はどんどん過ぎていきます。第2学年の学生は、「何もしないでいるリスク」について三菱重工の山中様から「人間力講座」で教わっています。後から考えると、何気ない日々の中に色々な行動に移すべきチャンスがあるものです。

就職活動目前の学生は、自分をどうアピールするかについてスキルを身に付けてください。豊田高専の学生であるというだけで魅力を感じる企業は多いので、自信を持って自分の良いところをアピールできる技術を獲得してください。コツは場数を踏むことです。キャリア教育支援プログラムには場数を踏んで自信をつけるためのプログラムを準備しています。

もちろん、豊田高専での学生生活は、企業に就職をすることのみが目的ではありませんから、学生の皆さんは、特に焦ることはありませんが、このような社会情勢を味方につけて、より充実した高専生活が送れるようになれば、一石二鳥ですね。



第3学年「今の私・卒業後の私2」企業調査発表



第2学年「人間力講演会」



第4学年「進学情報説明会」

図書館だより

新しい本と出合おう

図書館閲覧補佐員 情報工学科 4年 ながさか こうすけ 長坂 光将

11月1日に私はブックハンティングに参加しました。ブックハンティングとは1年に1度、図書館に入れて欲しい本を直接本屋に購入しに行くことです。各クラスで約1万円分の本を購入することができます。学科ごとで購入する本に特徴があり、また学生目線の面白い本も選ばれます。今回で私は3回目の参加になりますが、毎回新しい本や興味深い本と出会っています。表紙やタイトル等を見て自身に興味のある本を探すことは非常に面白いです。今回のブックハンティングで購入した本以外にも、図書館には様々な面白い本があり、学生たちがテーマに沿って本の紹介も行っています。また、図書館にない本は購入依頼をすることができます。皆さんもライトではなくヘビーな本もぜひ読んでみてください。



印象に残っている仕事

図書館閲覧補佐員 電気・電子システム工学科 4年 もりや たつゆき 森谷 竜之

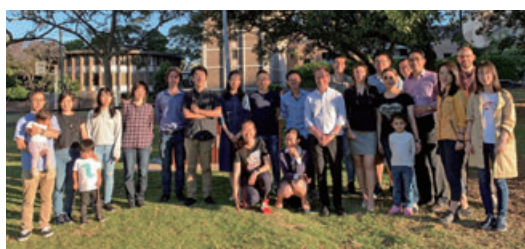


これまで担当してきた業務の中で一番印象に残っているのは「ミニ企画展示」です。ミニ企画展示は、毎月一人がテーマを決めて本を選び、ポスターなどを製作して選んだ本を一か月間展示するというものです。私は11月に「生き方を考える」というテーマで展示をしたのですが、そこで苦労したのは選書する本のジャンルでした。どのような本を選べば多くの人に人生について考えるきっかけを持ってもらえるかを考え、最終的に一冊一冊扱うテーマの異なる本を選ぶことにしました。11月になって企画展が始まると殆どの本が貸し出された状態になり、多くの方が関心を示して下さっていることが分かりとても嬉しかったです。図書館ではこのように自分の好きな本を紹介する機会もあるので、自分の好きな本をもっと多くの人に知ってもらいたいという方は図書館閲覧補佐員の仕事がお勧めです。

在外研究員だより

シドニー大学の建築学科から

建築学科 准教授 もりかみ しんや 森上 伸也



研究室のみんなでバーベキュー

私は2019年9月から約1年間、在外研究員という制度を活用してオーストラリアのシドニー大学で研究をしています。在外研究という言葉は、あまり聞きなじみのない言葉かと思えます。研究休暇といわれることもあり、多忙な学務から解放され研究に専念する期間のようですが、実態は私もよくわかっていません。休暇といっても海外生活をのんびり満喫するだけでは論外ですし、この機会を与えてくださった皆様へのお礼という意味でも、朝から晩まで研究に没頭しています。言葉や文化、法律の違いもあり、うまくいかないこともあります。現地の研究プロジェクトに参加させていただいたことで、

少しずつ兆しが見えてきて今は研究が楽しくて仕方がない状態です。私生活の方はというと、契約した家具付きアパートの家具はほとんど壊れていたり、電力会社の詐欺に遭いそうになったり、街中で通りすがりの幼児にいきなり蹴られることもありましたが、とても充実した生活を送っています。シドニーの人たちは日本の人たちと真逆でライフワークバランスがライフにとっても偏っています。勤務中でも「運動は良いアイデアを生み出す」とか言ってプールに行き、ガッツリ3キロ泳ぐこともしばしばあります。工事現場のお兄さんも歌いながら、銀行のお姉さんも窓口でジュースを飲みながら楽しそうに働いています。それでも仕事はきっちり成果を出しているのも私も見習わなければと思いました。そんなシドニーですが、近年はせわしく再開発が推し進められています。いたるところで行われている建設・土木工事を横目に通勤しています。電子化・情報化も進んでいて、多くの手続きや作業がネットワークを介してできるようになっています。このようなエンジニアの需要が高い場所が世界にはたくさんあります。学生の皆さんには世界にも視野を広げて活躍してほしいと実感しています。



世界文化遺産オペラハウス

新任教職員挨拶

11年目で新任です

一般学科 准教授 こやま ひろこ 小山 博子



2019年10月に一般学科に着任しました小山博子と申します。私は幼少期を兵庫、小学校から高校までを滋賀、大学を奈良、そして大学院を愛知で過ごしました。学位取得後は、研究員として韓国の梨花女子大学、東京の国立天文台、早稲田大学に勤務しました。私の研究分野は宇宙物理学です。重力の不思議に昔から興味があり、ブラックホールや銀河といった重力が重要な役割を担う天体現象の理論的研究を行ってきました。

ご縁あって2008年より豊田高専で非常勤講師をさせていただき、このたび常勤教員として新任になりました。非常勤の頃から、豊田高専の学生さんは鋭い質問をくれるので、感心しながら楽しんで授業をさせていただいておりました。常勤になって一日の大半を高専で過ごすようになり、授業時間以外の学生さんの様子、放課後にクラブ活動がんばっていたり、コラボレーションスペース等で勉強したりの様子も楽しく拝見しています。学生さんが気軽に相談できる存在になりたいです。よろしくお願いいたします。

初めての単身赴任生活

学生課長 やまぐち のりあき 山口 範明



令和元年5月1日付けで福井工業高等専門学校(6年10カ月勤務)から異動してまいりました山口範明と申します。

福井県坂井市丸岡町(嶺北)で生まれ育ち、学校も県内でした。就職も福井医科大学(現在は統合されて福井大学)で、その後3年間だけ実家から離れ、国立若狭湾少年自然の家(福井県小浜市(嶺南))で勤務することはありましたが、県外に出て単身赴任生活をするのは初めてです。最初は、環境の変化に戸惑いもありましたが、ようやく慣れてきたところです。50年以上、福井の田舎に住んでいますのでなまりが抜けません。なまりで私の言葉が聞き取れないことが多々あるかもしれませんが、ご容赦ください。(福井弁丸出しでしゃべります。)

微力ではありますが、豊田工業高等専門学校の発展のために尽力したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

大学から高専へ

学生課学生支援係長 いとう さとし 伊藤 聡



令和元年10月1日付けで学生課学生支援係に着任しました伊藤です。職歴ですが、最初に岐阜大学に奉職、3年強の勤務の後に名古屋大学へ異動となり14年程の勤務の後、この度、豊田高専にお世話になることとなりました。職務上は、課外活動、学生会活動、経済支援、就職支援関係を中心に担当する部署で勤務させていただくこととなります。高校や大学と異なり、今まで高専という組織に身を置いた経験がないため、未知の部分も多く新鮮さを感じると共に戸惑うことも多いのが実情です。その中でも多忙な正課に加えて精力的に学校行事、課外活動業務に携わっている先生方の姿は、大学の様相とは一味違っておりとても驚きました。また、教育機関として整備が求められている学生サポート体制の構築に向けて尽力している教職員の姿に共感する場面が多くあります。

そして、正課に加えて課外活動、学生会活動に活躍している学生の様子を間近で見られる点で魅力ある職場と実感しています。周囲の方々のサポートは不可欠ですが、先人達が残した豊田高専の文化に習熟しつつ、今までの大学業務で培った視点を職場に還元することで今後の豊田高専の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

笑顔をはがけて業務に取り組みます

総務課総務企画係 にいみ ひな 新實 日奈



10月から総務課総務企画係に配属になりました新實日奈と申します。出身は静岡県熱海市で、高校卒業まで住んでいました。就職を機に愛知県での生活をスタートし、現在は豊田市内で、夫と中学生の子ども2人と住んでいます。実家のある熱海市は温泉の街で有名で、一年を通して多くの観光客が来ています。私も昔から温泉が大好きで、家族や友人と温泉巡りをすることが趣味です。また、最近私はまぜそばにハマっていて、いろいろなお店にまぜそばを食べに行っています。美味しいまぜそばを知っている方は、ぜひ教えてください!!

前職は、自動車関連企業や福祉団体で事務職員をしていました。豊田高専で仕事を始めてまだ日が浅く、同じ総務企画係の方には毎日ご迷惑をおかけしてばかりですが、早く仕事に慣れてみなさんのお役に立てるよう頑張ります。持ち前の明るさと元気で、どんなときも笑顔での対応を心がけたいです。豊田高専生にとって充実した学校生活を送れるように精一杯頑張りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

令和2年3月卒業・修了予定者の就職・進学状況

(令和2年2月28日現在)

機械工学科

- 食料品・飲料・たばこ・飼料
キリンビール(株) (1)
- 化学工業・石油・石炭製品
東レ(株) (1)
- はん用・生産用・業務用機械器具
(株)ニコソ (1)
- (株)アルバック (1)
- 新明工業(株) (1)
- 平田機工(株) (1)
- (株)小松製作所 (1)
- (株)京都製作所 (1)
- 村田機械(株) (1)
- 電子部品・デバイス・電子回路
浜松ホトニクス(株) (1)
- 電気・情報通信機械器具
セイコーエプソン(株) (1)
- プラザー工業(株) (1)
- パナソニックエコシステムズ(株) (1)
- 輸送用機械器具
(株)SUBARU (1)
- 本田技研工業(株) (1)
- 日本車輛製造(株) (1)
- 豊田合成(株) (1)
- トヨタ自動車(株) (1)
- 小島プレス工業(株) (1)
- 製造業(その他)
日本特殊陶業(株) (1)
- プライムアースEVエナジー(株) (1)
- 王子製紙(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
中部電力(株) (1)
- 運輸業・郵便業
J R東海(株) (1)
- サービス業
ANAラインメンテナンステクニクス(株) (1)
- (株)メンバーズ (1)

計39名

電気・電子システム工学科

- 建設業
(株)ジェイベック (1)
- 日経ハイライン&エンジニアリング(株) (1)
- 輸送用機械器具
(株)シマノ (2)
- 製造業(その他)
日本特殊陶業(株) (1)
- プライムアースEVエナジー(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
中部電力(株) (1)
- 東邦ガス(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業
(株)NTTファシリティーズ東海 (1)
- (株)NTTファシリティーズ中央 (1)
- サービス業
三菱電機システムサービス(株) (1)

- 進学
東京大学 (1)
- 名古屋大学 (3)
- 新潟大学 (1)
- 群馬大学 (2)
- 三重大学 (2)
- 東京農工大学 (1)
- 横浜国立大学 (1)
- 名古屋工業大学 (7)
- 豊橋技術科学大学 (5)
- 琉球大学 (1)
- 豊田高専専攻科 (5)

計40名

情報工学科

- 食料品・飲料・たばこ・飼料
サントリースピリッツ(株) (1)
- はん用・生産用・業務用機械器具
(株)ジェイテクト (1)
- 電子部品・デバイス・電子回路
エヌエスディ(株) (1)
- 電気・情報通信機械器具
パソニック(株)コアデバイスソリューションズ (1)
- 輸送用機械器具
スズキ(株) (1)
- 情報通信業
(株)日立ハイシステム21 (1)
- (株)ビーネックスソリューションズ (1)
- (株)デンソークリエイト (1)
- (株)トヨタシステムズ (2)
- (株)アイエスエイプラン (1)
- (株)ハイマックス (1)
- オムロンソフトウェア(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業
トヨタテクノデバイス(株) (1)
- サービス業
ディーピーティー(株) (2)
- パーチャルクス・コンサルティング(株) (1)
- (株)メンバーズ (1)
- ヤフー(株) (1)
- (株)エイチーム (1)

- 進学
名古屋工業大学 (1)
- 豊橋技術科学大学 (7)
- 九州工業大学 (1)
- 豊田工業大学 (1)
- 豊田高専専攻科 (5)
- その他
吉本総合芸術学院 (1)
- 未定(進学希望) (2)
- 未定 (2)

計40名

環境都市工学科

- 建設業
日経ハイライン&エンジニアリング(株) (1)
- 小野田ケミコ(株) (1)
- アイシン開発(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
東邦ガス(株) (2)
- 中部電力(株) (1)
- 電源開発(株) (1)
- 大阪ガス(株) (1)
- 東京ガス(株) (1)
- 運輸業・郵便業
中日本高速道路(株) (1)
- J R東海(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業
中日本建設コンサルタント(株) (1)
- サービス業
中部国際空港施設サービス(株) (1)
- (株)NTTフィールドテクノ (1)
- 公務員等
国土交通省中部地方整備局 (5)
- 瀬戸市役所 (1)
- 春日井市役所 (2)
- 刈谷市役所 (2)
- みよし市役所 (1)

- 進学
北海道大学 (1)
- 名古屋大学 (1)
- 神戸大学 (1)
- 横浜国立大学 (1)
- 名古屋工業大学 (1)
- 岐阜大学 (3)
- 福井大学 (1)
- 室蘭工業大学 (1)
- 豊田高専専攻科 (4)
- その他
未定(進学希望) (1)

計40名

建築学科

- 建設業
(株)竹中工務店 (1)
- 大成建設(株) (2)
- 日本空港テクノ(株) (2)
- 小原建設(株) (1)
- ダイダン(株) (1)
- 大和ハウス工業(株) (1)
- (株)大林組 (1)
- 矢作建設工業(株) (1)
- 食料品・飲料・たばこ・飼料
雪印メグミルク(株) (1)
- 化学工業・石油・石炭製品
日本特殊塗料(株) (1)
- 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品
(株)LIXIL (2)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
東邦ガス(株) (1)
- 東京ガス(株) (1)
- 中部電力(株) (1)
- 運輸業・郵便業
近畿日本鉄道(株) (1)
- J R東海(株) (2)
- その他の専門・技術サービス業
(株)伊藤喜三郎建築研究所 (1)
- (株)池下設計 (1)
- サービス業
(株)日立ビルシステム (1)
- 公務員等
名古屋市役所 (1)
- 富士宮市役所 (1)

- 進学
東京大学 (1)
- 九州大学 (2)
- 信州大学 (1)
- 三重大学 (1)
- 福井大学 (1)
- 豊橋技術科学大学 (6)
- 滋賀県立大学 (1)
- 札幌市立大学 (1)
- 豊田高専専攻科 (4)
- その他
未定 (1)

計44名

電子機械工学専攻

機械工学科

- 電子部品・デバイス・電子回路
浜松ホトニクス(株) (1)
- 輸送用機械器具
豊田鈦工(株) (1)
- 日本車輛製造(株) (1)
- 運輸業・郵便業
J R東海(株) (1)

- 進学
岐阜大学大学院 (1)
- 豊橋技術科学大学大学院 (1)

計9名

電気・電子システム工学科

- はん用・生産用・業務用機械器具
オークマ(株) (1)
- 輸送用機械器具
アイシン精機(株) (1)

- 進学
名古屋工業大学大学院 (1)

情報科学専攻

情報工学科

- はん用・生産用・業務用機械器具
オークマ(株) (1)
- 電気・情報通信機械器具
富士通(株) (1)
- 情報通信業
ネクストウェア(株) (1)
- (株)創夢 (1)
- MHIエアロスペースシステムズ(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
中部電力(株) (1)

計6名

建設工学専攻

環境都市工学科

- 公務員等
国土交通省中部地方整備局 (1)

建築学科

- その他の専門・技術サービス業
中日設計(株) (1)
- (株)NTTファシリティーズ東海 (1)

計3名

() は人数

Calendar

10 OCTOBER 2019

- 10月5-6日 オープンキャンパス
- 10月 9日 避難訓練
- 10月13-14日 全国高専プログラミングコンテスト (都城高専)
- 10月17日 体育祭
- 10月20日 ロボットコンテスト地区大会(豊田高専)
- 10月27日 東海地区高専大会(ラグビー、沼津高専)

11 NOVEMBER 2019

- 11月2-3日 こうよう祭
- 11月 9日 第13回東海北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト (鳥羽商船)
- 11月10日 須賀杯駅伝大会
- 11月24日 ロボットコンテスト全国大会

12 DECEMBER 2019

- 12月7-8日 全国高専デザインコンペティション (産技高専(品川))
- 12月20日 閉寮
- 12月23日 冬季休業開始(本科)
- 12月24日 冬季休業開始(専攻科)

1 JANUARY 2020

- 1月 3日 冬季休業終了
- 1月4~9日 全国高専大会(ラグビー)
- 1月 6日 授業再開
- 1月 18日 令和2年度推薦選抜面接試験
- 1月 25日 クラブ対抗駅伝
- 1月 26日 第40回吹奏楽部定期演奏会

2 FEBRUARY 2020

- 2月 3日 後学期授業終了(専攻科)
- 2月 10日 後学期授業終了(本科)
- 2月 16日 令和2年度学力選抜入学試験

3 MARCH 2020

- 3月1~3日 第2学年スキー教育
- 3月 18日 修了式・卒業式
- 3月 19日 学年末休業開始

